

三 沢 権 道 遺 跡 6

—福岡県小郡市三沢所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書第354集

2 0 2 3

小郡市教育委員会

〈序文〉

小郡市は、北部・中南部における宅地開発や北東・中南部における工業団地の開発が相次いで行われ、現在福岡・久留米両市のベッドタウンとして日々発展を続けています。これに伴い、交通網の整備も着々と進捗しつつあります。

今回報告する「三沢権道遺跡6」は、宅地造成に先立って小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。遺跡は、三国丘陵からなだらかに延びる沖積地の縁辺部に位置し、宝満川、口無川、高原川などによって形成された沖積台地上に営まれており、これまで5度の調査が行われてきました。

今回の調査の中心は中世の土坑と溝を確認しました。なかでも溝では過去の調査で確認された溝の延長部分を確認し、また井戸と考えられる土坑も検出し、三沢権道遺跡の中世集落の様相の一端を明らかにすることができました。今回得られた内容が今後永く活用され、この報告書が文化財愛護思想の普及に寄与することになれば幸いです。

最後に、現地発掘調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民のみならず、そして現地作業にあたる地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々へ感謝を申し上げ、序文といたします。

令和5年3月31日

小郡市教育委員会
教育長 秋永 晃生

〈例言〉

- 1、本書は、福岡県小郡市三沢字権道に所在する三沢権道遺跡6区の発掘調査報告書である。
- 2、発掘調査は、ダイヤモンドエイチ株式会社から委託を受け、小郡市教育委員会が実施した。
- 3、調査期間は、令和3年11月29日から令和4年2月3日まで実施した。調査面積は160㎡である。
- 4、遺構実測、遺物の復元・実測・製図には、担当者のほかに三津山靖也、仲田美乃里、久住愛子、佐々木智子、宮崎美穂子、永富加奈子、牛島真弓、林知恵、佐藤優子ら諸氏に多大なる協力を得た。
- 5、遺構の写真撮影は西江幸子が、遺跡の空撮は(有)空中写真企画、遺物の写真は(有)システム・レコが行った。
- 6、本書で使用する遺構の略号として以下を用いて表示している。
SK：土坑 SD：溝 SP：ピット
- 7、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管・管理している。
- 8、本書の執筆・編集は西江、高橋渉が行った。

本文目次

第1章	調査の経過と組織	1
	1. 調査の経緯	
	2. 調査の経過	
	3. 調査の体制	
第2章	位置と環境	2
第3章	遺構と遺物	5
	1. 遺跡の概要	
	2. 遺構と遺物	
	(1) 土坑	
	(2) 溝	
	(3) 風倒木	
第4章	まとめ	22

挿図目次

第1図	三沢権道遺跡6調査地位置図(S=1/4,000)	3
第2図	三沢権道遺跡6周辺遺跡分布図(S=1/25,000)	3
第3図	調査区配置図(S=1/150)	4
第4図	14号土坑・18号土坑・2号溝・6号溝・風倒木出土土器実測図(S=1/4)	9
第5図	1号・2号・3号土坑遺構実測図(S=1/40)	10
第6図	4号・5号・6号土坑遺構実測図(S=1/40)	11
第7図	9号・10号・11号・12号・13号土坑遺構実測図(S=1/40)	12
第8図	16号・19号土坑遺構実測図(S=1/40)	13
第9図	18号土坑遺構実測図(S=1/40)	14
第10図	8号土坑・風倒木遺構実測図(S=1/40)	15
第11図	1号溝遺構実測図(S=1/40)	16
第12図	2号溝遺構実測図(S=1/60)	17
第13図	4号溝・14号・15号土坑遺構実測図(S=1/40)	18
第14図	5号溝遺構実測図(S=1/40)	19
第15図	6号溝遺構実測図(S=1/40)	20
第16図	18号土坑・2号溝出土石器・石製品・鉄器実測図(5:S=1/2、その他:S=1/4)	21
第17図	三沢権道遺跡1・3・4・6次調査区配置図(S=1/600)	23

表目次

表1 出土遺物 観察表	24
-------------	----

図版目次

図版1	①三沢権道遺跡6 調査区全景 (上空から撮影)
	②三沢権道遺跡6 調査区全景 (南東側上空から撮影)
図版2	①1号土坑完掘 (東側から撮影)
	②2号土坑完掘 (東側から撮影)
	③3号土坑完掘 (南側から撮影)
	④4号土坑土層断面 (西側から撮影)
	⑤4号土坑完掘 (西側から撮影)
	⑥5号土坑完掘・土層断面 (北側から撮影)
	⑦6号土坑完掘 (北側から撮影)
図版3	①8号土坑完掘 (西側から撮影)
	②9号土坑完掘 (東側から撮影)
	③10号土坑完掘 (東側から撮影)
	④11号土坑土層断面 (東側から撮影)
	⑤11号土坑完掘 (東側から撮影)
	⑥4号溝・15号土坑土層断面 (東側から撮影)
	⑦14号土坑・15号土坑完掘 (東側から撮影)
図版4	①16号土坑完掘 (北側から撮影)
	②18号土坑完掘 (東側から撮影)
	③1号溝完掘 (南側から撮影)
	④18号土坑土層断面 (北東側から撮影)
	⑤2号溝完掘 (南側から撮影)
	⑥2号溝 C-C' 土層断面 (南側から撮影)
	⑦2号溝 A-A' 土層断面 (南側から撮影)
図版5	①5号溝完掘 (南側から撮影)
	②6号溝完掘 (南側から撮影)
	③風倒木掘削状況 (南側から撮影)
	出土遺物①
図版6	出土遺物②

第1章 調査の経過と組織

1. 調査の経緯

三沢権道遺跡6は小郡市三沢字権道15・16番1合併13、15・16番合併14、15番33及び15番41の一部における宅地開発に伴い、地権者より令和元年9月24日付で小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無に関する照会（審査番号19065）が提出されたことに始まる。小郡市教育委員会では、これをうけ試掘調査を行った結果、地表下50～60cmの深さで遺構が確認されたことから開発に先立って埋蔵文化財に関する協議が必要であると回答した。協議の結果、敷地のうち道路部分についての160㎡について発掘調査を行うこととなった。

2. 調査の経過

発掘調査は令和3年11月29日から令和4年2月3日にかけて実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

11月29日 調査区の表土剥ぎ開始（～12月3日）。

12月7日 遺構検出・掘削開始。

1月21日 全景写真撮影、遺構掘削終了。

1月24日 遺構・全体図面実測終了。

1月31日 調査区の埋め戻し（～2月3日）。

2月3日 現場引渡し、調査完了。

以後、図面・遺物整理作業及び報告書作成実施。

3. 調査の体制

三沢権道遺跡6の調査の体制は、以下の通りである。

〔令和3年度〕

小郡市教育委員会

教育長 秋永 晃生

教育部長 山下 博文

文化財課長 柏原 孝俊

係長 杉本 岳史

技師 西江 幸子（調査担当）

〔令和4年度〕

小郡市教育委員会

教育長 秋永 晃生

教育部長 藤吉 宏

文化財課長 杉本 岳史

係長 山崎 頼人

技師 高橋 渉（整理担当）

第2章 位置と環境

三沢権道遺跡6は小郡市三沢字権道15・16番1合併13、15・16番1合併14、15番33、15番41に所在する。遺跡は、小郡市の中央を南流する宝満川の右岸、通称、三国丘陵から南東に派生する中位段丘の縁辺部に位置し、北西から南東に延びる舌状台地上にある。これまでに5次の調査が行われ、中世を中心とする遺構群が検出されている。

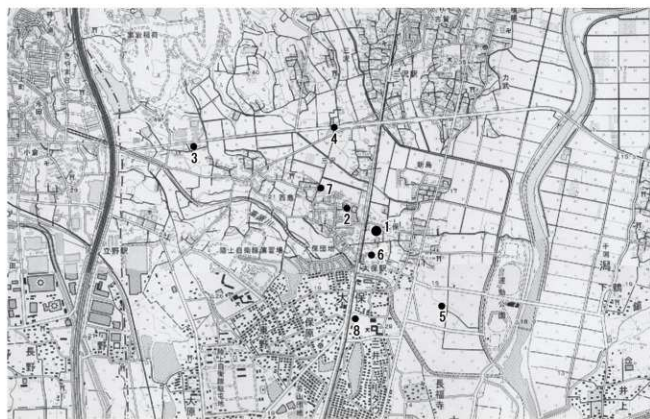
1次調査(市報告第82集)は平成4年(1992)に行われ、土坑10基、井戸2基、溝状遺構2条などを検出した。出土遺物は土器・陶磁器類のほか土鍾・凝灰岩製容器などがある。13世紀中ごろの7号土坑からは天目茶碗が出土している。2次調査(市報告第125集)は平成9年(1997)に実施し、掘立柱建物2棟、土坑1基などとともに、区画溝を検出している。時期は13世紀後半～14世紀後半である。3次調査(市報告第320集)は平成28年(2016)に実施し、土坑32基、溝状遺構5条などを検出し、時期は14世紀中ごろから16世紀にかけてである。4次調査(市報告第337集)は平成30年(2018)に実施し、掘立柱建物4棟、土坑15基、溝状遺構6条が確認された。出土遺物は少量であるがほとんどが13世紀後半～15世紀代のものである。4次調査では備柱建物と区画溝がみつき、13世紀～14世紀の拠点集落の典型例を示すと考えられる。5次調査は令和2年(2020)に実施し、鎌倉時代から室町時代の土坑6基と溝状遺構1条、ピット群を検出した。出土遺物は少量であるが、その中には鬮の羽口数点と多くの鉄滓が出土し、鍛冶を行っていたと思われる。さらに大型の土坑は、検出面で3.4m以上×3.4m、深さ1.7m以上を測り、大型の地下式土坑と考えられる。

次に小郡市内における中世の遺構の動向に焦点をあてていきたいと思う。中世になると小郡市域では、稲吉元矢次遺跡(市報告第45集)や西島遺跡3(3:市報告第87集)といった拠点集落が形成されるようになる。稲吉元矢次遺跡は12世紀～14世紀にかけて営まれた宝満川を介した港町があり、中国から輸入された陶磁器が多量に見つかるなど12世紀～14世紀における集落の繁栄を垣間見ることができる。また、絵というは歌が墨書された土師器や基石等の娯楽道具も出土している。また多くの鉄滓とともに溶かした鉄をすくう取飯も発見され、集落内で鍛冶を行っていたと考えられる。そして西島遺跡3次調査の土坑からは12世紀前半代～12世紀中頃の多数の青磁や土師器が出土しており、特に青磁は小郡市内でも出土量が多い遺跡であることから、拠点集落であったと考えられる。

その後14世紀以降になると大保西小路遺跡(6:市報告第99・160・301・305・307集)において14世紀～16世紀を中心とする集落跡が発見されている。土坑や鍛冶関連遺構などとともに地下式土坑が確認されている。この地下式土坑は墓地の可能性が指摘されている。この土坑からは多くの陶磁器類とともに「明」の銅銭や五輪塔空・風輪、青銅製懸仏などの注目すべき遺物が数多く出土している。また、三沢寺小路遺跡(2:市報告第117・158・222・229・263・335集)では従来1349年の大保原合戦の戦死者を弔った善風寺跡地に比定される伝承が残る地域である。近年の発掘調査成果により区画溝やこの区画溝に沿った土壌墓群から大量の軒丸瓦・軒平瓦・土師器が出土し、時期的にも伝承通りこの地に善風寺が存在した可能性が高い。大原小学校の校庭には大保原合戦で亡くなった武将の塚と伝わる「善風塚」(8)もあり、この地で勃発した九州南北朝最大の戦い「大保原(大原)合戦」が大きな画期となっている。

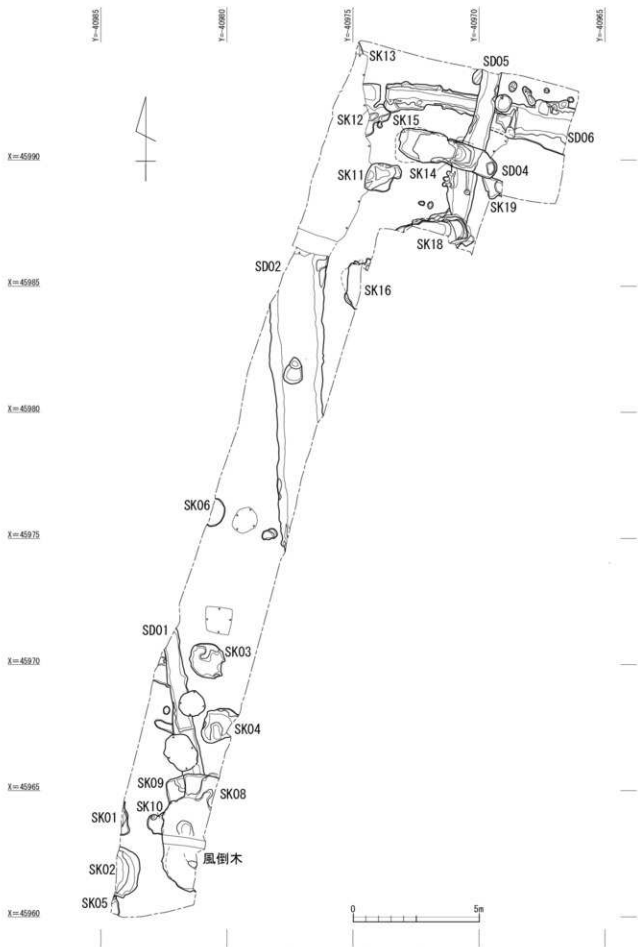


第1図 三沢権道遺跡6調査地位位置図 (S=1/4,000)



- 1: 三沢権道遺跡6 2: 三沢寺小路遺跡 3: 西高遺跡3 4: 三沢宮ノ前遺跡2~4 5: 大保横枕遺跡2
6: 大保西小路遺跡 7: 三沢敏道町遺跡 8: 善風塚

第2図 三沢権道遺跡6周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)



第3図 調査区配置図 (S=1/150)

第3章 遺構と遺物

1. 遺跡の概要

遺構の主な時期は中世で、遺構密度は比較的低い。今回確認された遺構は、土坑16基、溝5条である。土坑16基のうち3基(14・15・18号土坑)については素掘りの井戸である可能性が高い。また2号溝については三沢権道遺跡4次調査で確認された2号溝の北側を検出した。さらに調査区北側で検出した6号溝は東から西に向かって検出されたが、調査区を横断することなく調査区内で止まることがわかった。本調査区の北側で調査された三沢権道遺跡1次調査では谷部が確認されており、さらに井戸は集落の縁辺部に作られることが多いことを考えると今回確認された6号溝は三沢権道遺跡の中世集落の北限の可能性が高い。

2. 遺構と遺物

(1) 土坑

1号土坑(第5図、図版2)

調査区南側で検出した土坑で、標高18.95mを測る。遺構の西側は調査区外に延びる。遺構の平面は不整形で、規模は長軸1.33m、短軸1.7m、深さ48cmを測る。東側にテラスを有し、中央部が一番低くなる。埋土は上層に灰褐色土、中層から下層にかけて暗灰褐色土が平行堆積する。遺物は出土していない。

2号土坑(第5図、図版2)

調査区南側で検出した土坑で、1号土坑の南側に位置する。1号土坑同様、遺構の西側は調査区外に延びる。標高は18.9m前後である。遺構の平面は円形を呈し、現況で長軸1.95m、短軸0.9m、深さ25cmを測る。東側にテラスを有し、中央に向かって段状に下り、中央が一番低くなっている。埋土は暗灰褐色土が平行に堆積している。遺物は、土師器の皿と器種不明の土師器が出土しているが、小片のため図化していない。

3号土坑(第5図、図版2)

調査区南側で検出した土坑で、1号溝の北側に位置する。標高は18.95mを測る。遺構の平面は円形を呈し、長軸1.35m、短軸1.3m、深さ15cmを測る。北側にテラスを有し、そこから床面にむかって緩やかに下っている。床面は水平である。埋土は灰褐色シルト土である。遺物は出土していない。

4号土坑(第6図、図版2)

調査区南側で検出した土坑で、1号溝の北側に位置する。東側の一部を調査区外に延びる。標高18.95mを測る。遺構平面は隅丸方形で、規模は長軸1.65m、短軸1.25m、深さ0.7mを測る。北側から南側にむかって階段状に下っていく。遺物は出土していない。

5号土坑 (第6図、図版2)

調査区南側で検出した土坑で、2号土坑の南側に位置する。遺構の北東部1/4程度を検出したのみで、それ以外が調査区外に延びる。標高は18.95mを測る。遺構平面は不整形であるが遺構のほとんどが調査区外に延びるため遺構の正確な形は不明である。現状で長軸65cm、短軸25cm、深さ15cmを測る。東側から床面に向かって緩やかに下る。埋土は薄茶褐色土と暗灰褐色土が平行に堆積する。遺物は出土していない。

6号土坑 (第6図、図版2)

調査区の西側で検出した土坑で土坑の西半分が調査区外に延びる。標高は19.0m前後である。遺構の平面は円形で、規模は長軸1.1m、短軸0.5m、深さは最大10cmほどである。遺物は出土していない。

8号土坑 (第10図、図版3)

調査区南側で検出した土坑で、風倒木の北側に位置し、風倒木を切る。標高は18.0m前後を測る。遺構の平面は不整形で、西側は調査区外に延びる。規模は長軸1.5m、短軸0.5m、深さは20cmほどである。床面にむかって緩やかに下っていく。遺物は土師器が出土しているが、小片のため図示していない。

9号土坑 (第7図、図版3)

調査区南側で検出した土坑で、風倒木の北東側に位置し、風倒木を切る。標高は18.95mを測る。遺構平面は隅丸方形で、遺構の北西部1/4程度を検出したのみである。規模は長軸90cm、短軸70cm、深さは最大で15cm程度である。東側にテラスを有し、床面にむかって緩やかに下っている。遺物は出土していない。

10号土坑 (第7図、図版3)

調査区南側で検出した土坑で、風倒木の西側に位置する。10号土坑も8・9号土坑同様、風倒木を切っている。標高18.95mを測り、遺構平面は円形である。規模は長軸75cm、短軸65cm、深さ10cmを測る。遺構は緩やかに下り、北側の一部がピット状に窪む。遺物は出土していない。

11号土坑 (第7図、図版3)

調査区北側で検出した土坑で、14号土坑の南西部に位置する土坑である。標高18.85mを測る。遺構平面は隅丸方形で、規模は長軸1.45m、短軸1.1m、深さ35cmを測る。複数のテラスを有し、東側から西側に向かって緩やかに段状に下っていき、西側が一番低くなる。遺物は出土していない。

12号土坑 (第7図)

調査区北側で検出した土坑で、6号溝の西側に位置する土坑である。標高18.8mを測る。遺構平面は不整形で、規模は長軸2.0m、短軸0.7m、深さ20cmを測る。東側を6号溝に、西側を3号溝に切られる。複数のテラスを有しながら床面にむかって緩やかに下っている。遺物は土師器が出土しているが、小片のため図示していない。

13号土坑（第7図）

調査区北西端に位置する土坑で、南側を3号溝に切られる。標高は18.85mを測る。遺構の北東端部を検出したのみで、遺構平面は不明である。規模は現状で長軸50cm、短軸25cm、深さ15cmほどを検出したにすぎない。遺物は土師器が出土したが、小片のため図示していない。

14号土坑（第13図、図版3）

調査区北側で検出した土坑で、5号溝を切る。14号土坑・15号土坑・4号溝が切りあっており、前後関係は15号土坑が一番古く、15号土坑を14号土坑が切っており、14号・15号土坑を4号溝が切っている。標高18.8mを測る。遺構平面は隅丸方形で、規模は長軸1.1m、短軸1.0m、深さ1.3mを測る。複数のテラスを有し、中央部にむかつて下る。遺物は上層から14世紀後半～15世紀中頃のすり鉢が出土し、他にも土師器の皿などが出土している。遺構の形状および土層の堆積状況より素掘りの井戸であると考えられる。

出土遺物

土器（第4図、図版5）

1は土師器のすり鉢である。上層より出土した。片口である。内面と外面の上部の一部に煤が付着している。2は土師器の皿である。底部に糸切が施されている。

15号土坑（第13図、図版3）

調査区北側で検出した土坑で、14号土坑・4号溝に切られる。標高18.8mを測る。遺構平面は隅丸長方形で、規模は長軸2.3m、短軸1.2m、深さ1.5mを測る大形の土坑である。西側にテラスを有し床面にむかつて急激に落ちる。遺物は土師器の皿の小片が出土し、下層からは土師器の皿やすり鉢の破片、瓦などが出土している。遺構の形状より、15号土坑も素掘りの井戸であると考えられる。

16号土坑（第8図、図版4）

調査区東側に位置する土坑で、土坑の東半分が調査区外に延びる。標高18.85mを測る。遺構平面は隅丸方形で、規模は長軸1.8m、短軸0.5m、深さ1.2mを測る。床面にむかつてオーバーハングしている。埋土は灰褐色土と暗褐色土が平行に堆積している。遺物は出土していない。

18号土坑（第9図、図版4）

調査区北東部で検出した土坑で、遺構の南側半分が調査区外に延びる。標高18.6～18.9mを測る。遺構平面は隅丸長方形で、規模は長軸1.5m、短軸1.2m、深さは最大で1.8mである。遺構検出時には、周辺でよくみられる大型土坑の一種と想定していたが、掘削を進める中で遺構の形状および土層断面の観察から、東側で方形のテラス状部分からなる遺構と東側のテラス状部分よりさらに40cm深く底面が方形を呈する遺構が切りあっていることがわかった。東側で方形のテラス状部分からなる遺構は、遺構の形状や土層断面の観察より方形の素掘りの井戸と考えられる。一方、東側のテラス状部分よりさらに40cm深く掘削された遺構は、壁面はオーバーハングしており、袋状に広がる遺構と想定できる。埋土は灰褐色土と暗褐色土がレンズ状に堆積しており、東側のテラス状部分よりさらに40cm深く掘削された遺構が古く、その後東側のテラス状部分からなる遺構が使用され、最終的に遺構全体が埋没したと考えられる（第9図）。遺物は上層より土師器の皿や鍋の破片が出土し、下層から土師器の皿や土師器の鍋、すり鉢のほか、鉄器

や瓦、石臼の破片が出土している。

出土遺物

土器 (第4図、図版5)

3は土師器の皿である。底部に糸切が施されている。

石器 (第16図、図版6)

1は敲き石である。現状で高さ10.1cm、幅3.9cm、厚さ3.2cmを図る。上下端部に敲きの痕跡が残る。2は石臼であり、上臼の破片である。側面に縄かけ突起があり、裏面に刻み目が残存する。3・4は平瓦の破片である。現状の法量は、3は長さ12.4cm、幅7.4cm、厚さ2.0cm、4は長さ7.5cm、幅5.3cm、厚さ1.7cmを測る。

鉄器 (第16図、図版6)

5は不明鉄製品であり、上部から端部にむかって幅が小さくなっている。現状の法量は、長さ6.0cm、幅0.8cm、厚さ0.9cmを図る。

19号土坑 (第8図)

調査区北東部に位置する土坑で、遺構の西側半分を検出した。標高は18.6mを測る。遺構の平面は不整形で、規模は長軸1.0m、短軸0.65m、深さ15cmである。西側にテラスを有し、東側にむかって緩やかに下っていく。遺物は出土していない。

(2) 溝

1号溝 (第11図、図版4)

調査区南側で検出した溝で、南北方向にはしる。標高18.8mで、長さ4.0m、幅0.9mを測る。遺構の一部を攪乱により削平を受けている。断面は楕円形である。遺物は土師器の破片が出土しているが、小片のため図示していない。2号溝と並行しているため同時期の溝と考えられる。

2号溝 (第12図 図版4)

調査区の中央部で検出した溝で、南北方向にはしる。長さ5.1m、幅1.5mを測る。断面は楕円形を呈する。1号溝と並行する。遺物は土師器の破片が出土したほか瓦質の鉢が出土しており、時期は13世紀後半～14世紀前半であると考えられる。

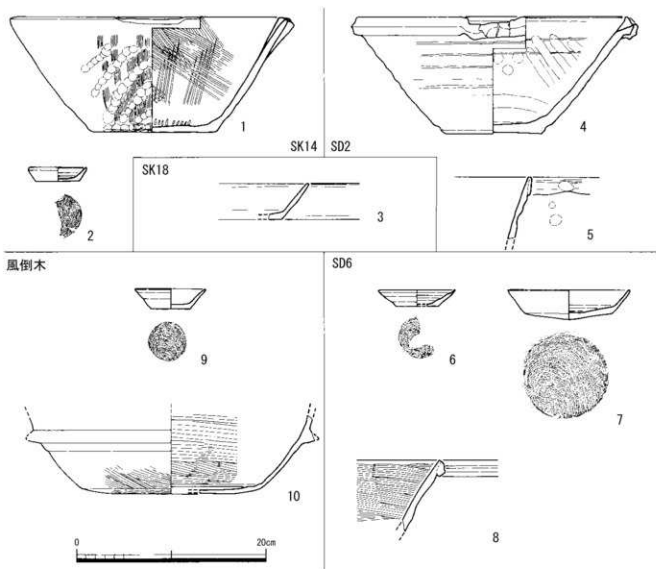
出土遺物

土器 (第4図、図版5)

4は須恵質土器の鉢である。2号溝の床直上から出土した。片口の鉢である。口縁部に自然釉が付着する。5は土師器の鍋である。残存高6.8cmを測る。玉縁口縁を呈していることから、肥前系の鍋と考えられる。

石器 (第16図、図版6)

6は敲き石である。現状で高さ12.8cm、幅5.2cm、厚さ4.2cmを測る。上下端部に敲きの痕跡が残る。7は磨石である。現状で高さ11.5cm、幅5.5cm、厚さ2.6cmを測る。



第4図 14号土坑・18号土坑・2号溝・6号溝・風倒木出土土器実測図 (S=1/4)

4号溝 (第13図、図版3)

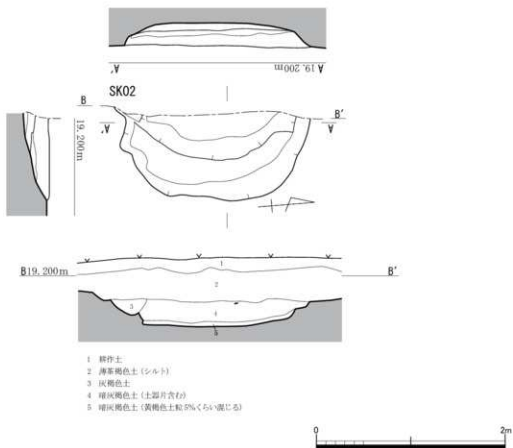
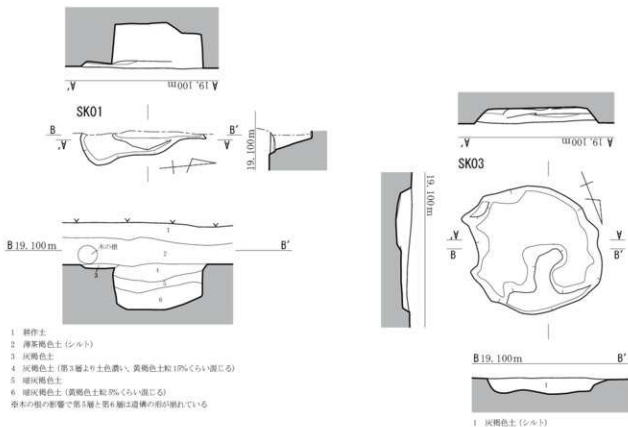
調査区北側で検出した溝で、東西にはしる。14・15号土坑を切る。標高18.8mで、規模は長さ4.0m、幅1.0mを測る。断面は楕円形を呈する。遺物は出土していない。

5号溝 (第14図、図版3)

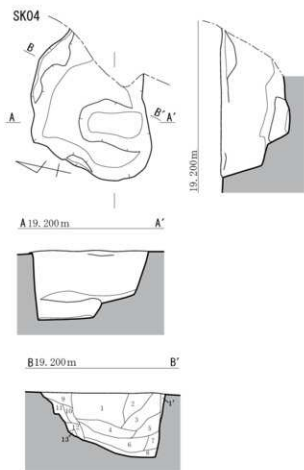
調査区北側で検出した土坑で、南北方向にはしり、6号溝を切る。1・2号溝とは角度が異なる。4号溝と18号土坑に切られる。標高は18.8～18.6mで、規模は長さ6.0m、幅0.9～1.0mを測る。埋土は薄茶褐色土と灰褐色土がレンズ状堆積している。遺物は土師器が出土しているが、小片のため図示していない。

6号溝 (第15図、図版3)

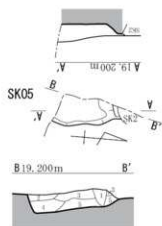
調査区北側で検出した東西方向に走る溝で、標高18.8m前後、規模は長さ7.4m、幅1.0～1.7mを測る。断面は逆台形を呈する。この6号溝だけ他の溝とは方向が異なる。さらに6号溝は調査区を横断せず、



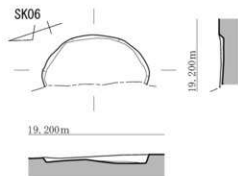
第5図 1号・2号・3号土坑遺構実測図 (S=1/40)



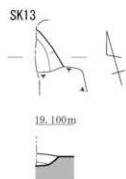
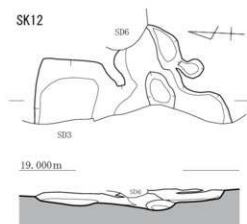
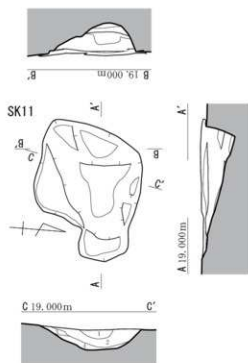
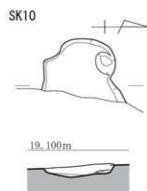
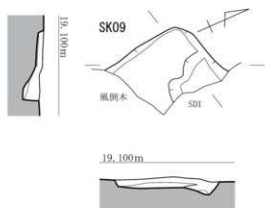
- 1 灰褐色土 (シルト)
 - 1' 灰褐色土【埋】
 - 2 薄灰褐色土
 - 3 灰褐色土
 - 4 埴灰褐色土
 - 5 褐色土【埋れ込み】
 - 6 埴灰褐色土 (第4層より土色濃い)
 - 7 褐色土【埋山、埋れ込み】
 - 8 埴灰褐色土 (灰褐色土と褐色土と埋山の混ざり、シルト)
 - 9 薄灰褐色土 (第2層より土色濃い)
 - 10 灰褐色土
 - 11 褐色土【埋れ込み】
 - 12 灰褐色土 (埴灰褐色土と3%くらい混じる)
 - 13 黄褐色土 (埴灰褐色土と10%くらい混じる)
- ※埋山は砂地の黄褐色土



- 1 薄黄褐色土 (木の根?)
- 2 埴灰褐色土
- 3 灰褐色土 (褐色土と10%くらい含む)
- 4 埴灰褐色土 (第4層より土色濃)
- 5 黄褐色土 (埴灰褐色土と2%混じる)



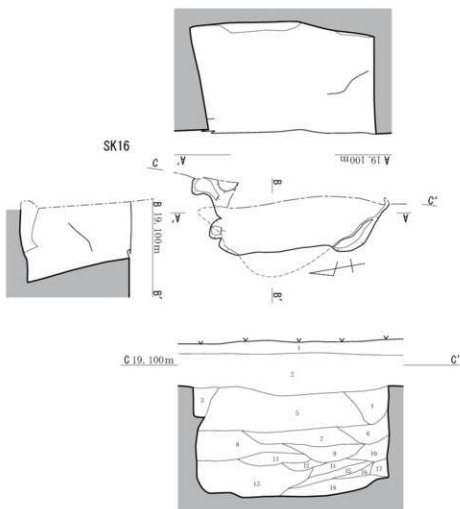
第6図 4号・5号・6号土坑遺構実測図 (S=1/40)



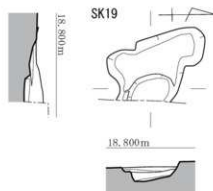
- 1 灰褐色土 (シルト)
- 2 灰褐色土 (灰褐色土和 5% くらい混じる)
- 3 灰褐色土 (黄褐色土和 30% くらい混じる)
- 4 増成褐色土 (シルト)



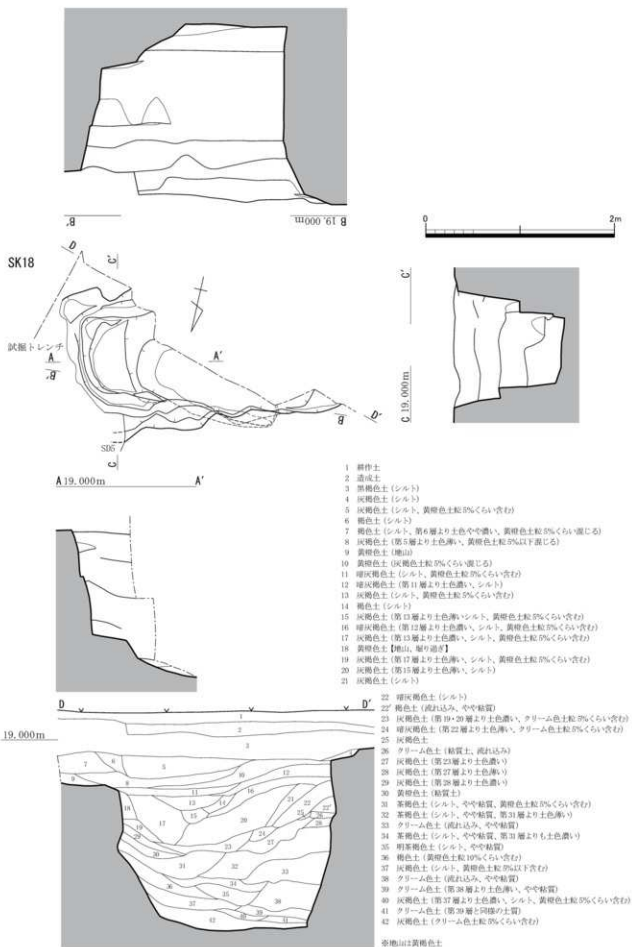
第7図 9号・10号・11号・12号・13号土坑遺構実測図 (S=1/40)



- 1 耕作土
 - 2 薄茶褐色土 (シルト)
 - 3 茶褐色土 (シルト)
 - 4 灰褐色土 (シルト、黄褐色土粒 5%くらい含む)
 - 5 茶褐色土 (シルト、褐色土粒 5%くらい含む)
 - 6 灰褐色土 (シルト、褐色土粒 5%くらい含む)
 - 7 灰褐色土 (シルト、茶褐色土粒 5%くらい含む)
 - 8 灰褐色土 (シルト、緑褐色土粒 5%くらい含む)
 - 9 暗灰褐色土 (シルト、茶褐色土粒 5%くらい含む)
 - 10 茶褐色土 (粘質、しまりあり)
 - 11 暗灰褐色土 (シルト、灰褐色土粒 5%くらい含む)
 - 12 茶褐色土 (シルト、暗灰褐色土粒 5%くらい含む)
 - 13 暗灰褐色土 (グリーン色土粒 5%くらい含む)
 - 14 灰褐色土 (グリーン色土粒 5%くらい含む)
 - 15 暗灰褐色土 (グリーン色土粒 5%くらい含む)
 - 16 茶褐色土 (粘質)
 - 17 茶褐色土 (粘質、しまりあり)
 - 18 茶褐色土 (シルト、暗灰褐色土粒 5%くらい含む)
- ※断面はグリーン色の砂層

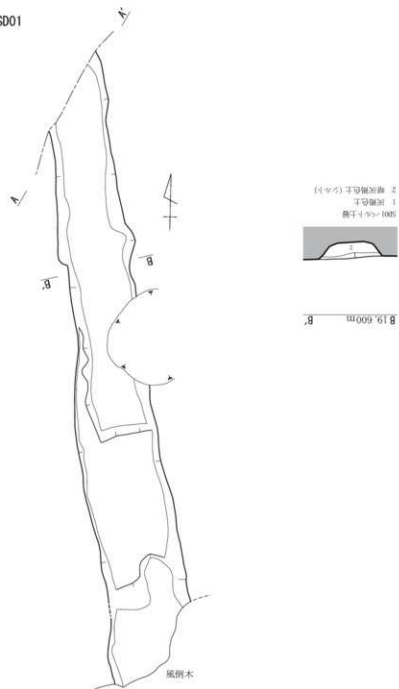


第 8 図 16 号・19 号土坑遺構実測図 (S=1/40)



第9図 18号土坑遺構実測図 (S=1/40)

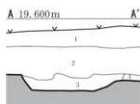
SD01



(イマス) 平野掘削跡 2
 平野掘削跡 1
 掘削イマス 1000



坂側木

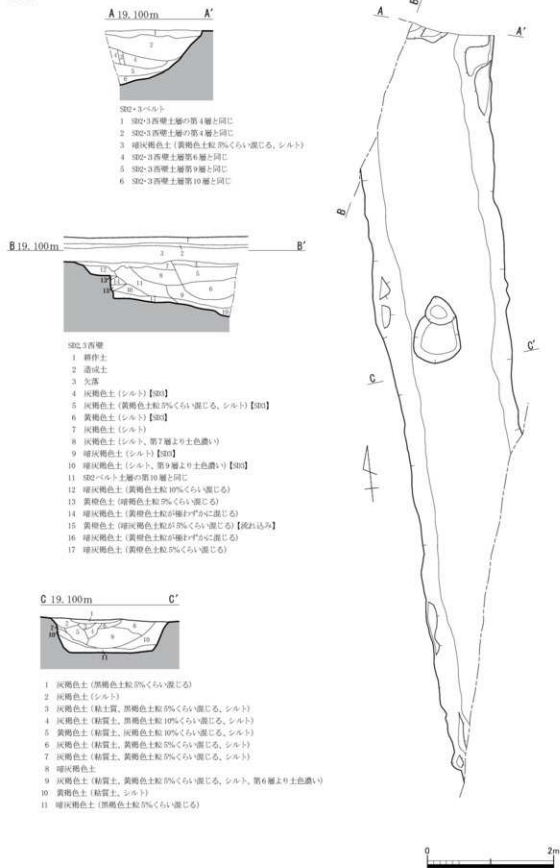


- SD01 西側-ベルト土層
- 1 耕作土
 - 2 薄茶褐色土 (シルト)
 - 3 暗灰褐色土 (シルト)
 - 4 茶褐色土【地山・掘り遺跡】

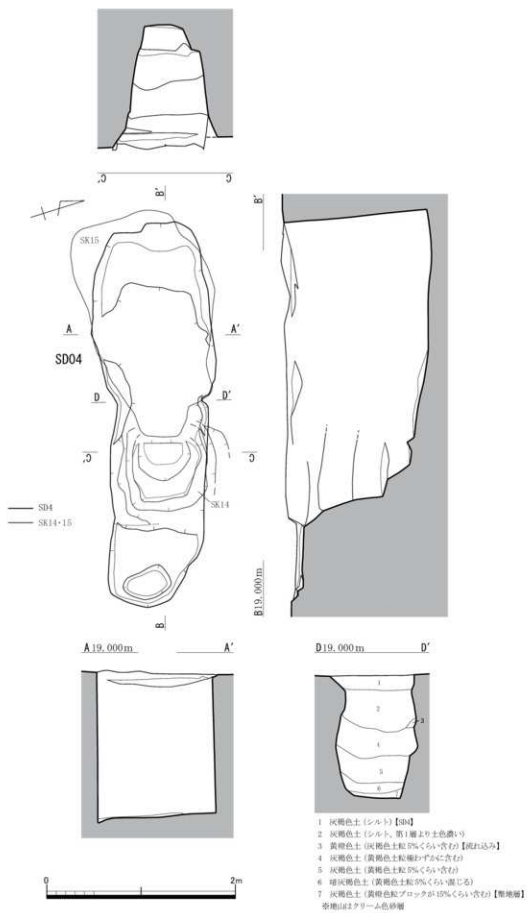


第 11 図 1号溝遺構実測図 (S=1/40)

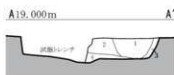
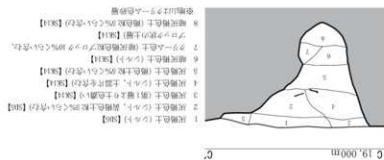
SD02



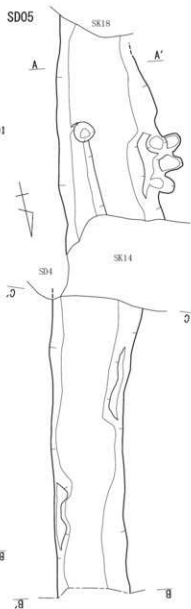
第 12 図 2号溝遺構実測図 (S=1/60)



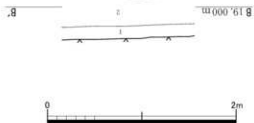
第13図 4号溝・14号・15号土坑遺構実測図 (S=1/40)



- 1 灰褐色土 (グリーン色土粒を多く含む) 【カクラン (木の根)
- 2 グリーン色土 (灰褐色土粒を多く含む) 【カクラン (木の根)
- 3 灰褐色土 (シルト) 【56】
- 4 暗灰褐色土 (シルト) 【56】

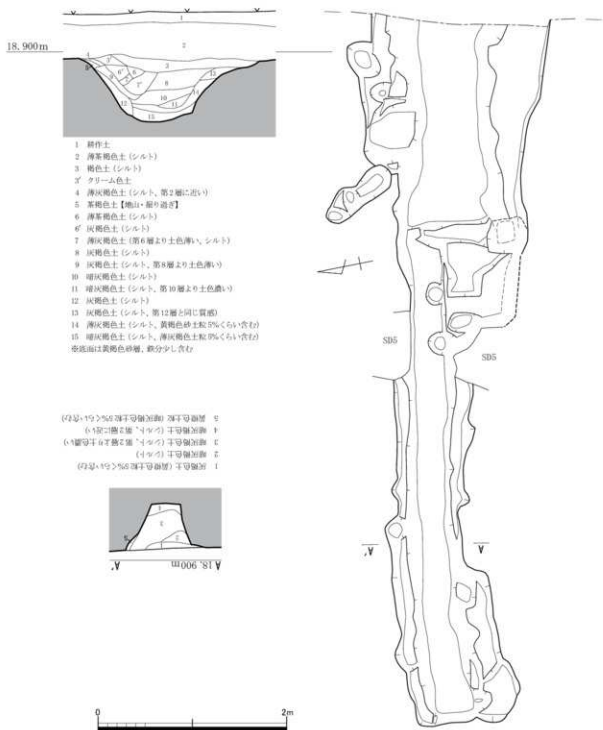


- (19)と(20)の境界面(1)の地層図
- (19)と(20)の境界面(2)の地層図
- (19)と(20)の境界面(3)の地層図
- (19)と(20)の境界面(4)の地層図
- (19)と(20)の境界面(5)の地層図



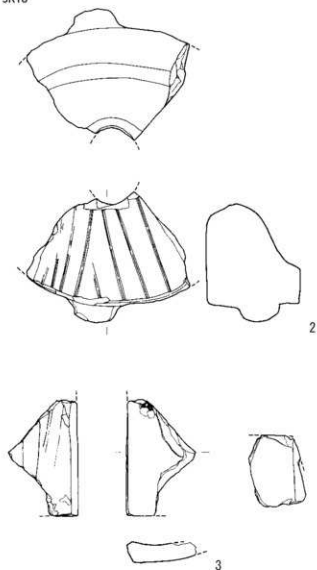
第 14 図 5号溝遺構実測図 (S=1/40)

SD06

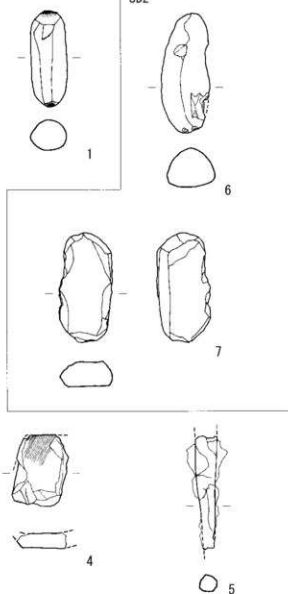


第15図 6号溝遺構実測図 (S=1/40)

SK18



SD2



第16図 18号土坑・2号溝出土石器・石製品・鉄器実測図（5：S=1/2、その他：S=1/4）

西端部は調査区内で止まり、東側は底面の幅が広く西側に比べて南側の溝の立ち上がり部分が南寄りに広がっている。埋土は灰褐色土と茶褐色土がレンズ状に堆積する。遺物は13世紀後半～15世紀中頃の土師器の皿や鍋の破片が出土している。

出土遺物

土器（第4図、図版5）

6・7は土師器の皿であり、底部はともに糸切を施している。7は内面に煤が付着しており、灯明皿であると考えられる。8は土師器の鍋である。残存高は7.5cmをはかる。玉縁線を呈していることから、肥前系の鍋と考えられる。

(3) 風倒木

風倒木 (第10図、図版5)

調査区南東部で検出したもので、東半分は調査区外に延びる。標高は18.9m前後で規模は長軸4.0m、短軸1.7m、深さ1.2mを測る。埋土はレンズ状に堆積する。遺物は土師器の皿や鍋の破片が出土している。

出土遺物

土器 (第4図、図版6)

9は土師器の皿である。復元口径7.4cm、器高2.1cmを測る。内外面ともに回転ナデで、底部は糸切が施されている。10は土師器の鍋である。残存高8.2cmを測り、内外縁ともハケメを施す。外面にはコゲが厚く付着している。

第4章 まとめ

三沢権道遺跡6で検出した主な遺構は、土坑17基(井戸3基含む)、溝5条、風倒木1基である。出土遺物は少量だが、そのほとんどが13世紀後半～15世紀代のもので、周辺の遺跡群と時期的に一致する。

今回検出した遺構で注目されるのは、区画溝と考えられる2号溝・6号溝と井戸と考えられる14号土坑・15号土坑・18号土坑である。まず、区画溝と考えられる南北方向に延びる2号溝は、4次調査で検出した2・3号溝状遺構から続く想定できる遺構であり、遺構の規格の形状から3号溝状遺構に続く遺構と考えられる。北側が調査区外へと延び、後世の擾乱により削平を受けているため不明なところがある。一方、区画溝と考えられる東西方向に延びる6号溝は、溝の西端部が立ち上がっていることから、この地点から区画溝が東側方向へと掘削されていることがわかる。2号溝と6号溝の遺構の規格及び断面形状を比較した際、溝の規格及び断面形状が6号溝と類似することから、互いに関連する可能性が想定できる。つまり、6号溝の西端に広がる地山検出面の平坦部分が2号溝からも延びる区画溝の出入口である可能性が高いと言えよう。4次調査で検出された3号溝状遺構は、掘立柱建物群を囲む区画溝であり、こうした掘立柱建物群と区画溝がセットとなる集落の様相は、市内の中世遺跡でみられる13～14世紀の拠点集落の典型例と一致している(杉本2020)ことから、今回の調査で4次調査に居住の中心がある集落の区画溝の北端が本調査区まで延びていることが判明した。本調査区より北側に位置する1次調査では、調査区西側に北西方向に延びる谷部を確認しており、現状でも北側に向かって地形が下がっていることから、今回の調査地点が4次調査で確認された建物群を中心とする拠点集落域の北端であることを裏付けられよう。次に、井戸と考えられる14号土坑・15号土坑・18号土坑であるが、いずれも素掘りでほぼ正方形を呈する。遺物の出土量は少ないものの14号土坑からはすり鉢と皿、18号土坑からは皿が出土している。周辺では、14世紀中頃～16世紀を中心とした遺構を確認している3次調査の37号土坑から土師器の五徳、37号土坑と切り合い関係にある34号土坑から土師器の鍋もしくは釜の脚部が出土しており、いずれも中世の煮炊き・調理に係る道具が発見されている。市内の中世の遺跡において煮炊き・調理に係る道具が発見されている例は少なく、大保西小路遺跡7(市報告310集)の3号土坑から五徳の破片と把手付鍋、大板井遺跡Ⅶ区(県横道第15集)西2号溝から把手付鍋が出土している。

本調査地周辺では、本遺跡の南側に隣接する大保西小路遺跡で14世紀中頃～15世紀に炉跡や鉄滓、籾羽口や鋳型片が出土し町の小鍛冶が想定でき、また、東側に約250mの地点には南北方向に旧筑前街

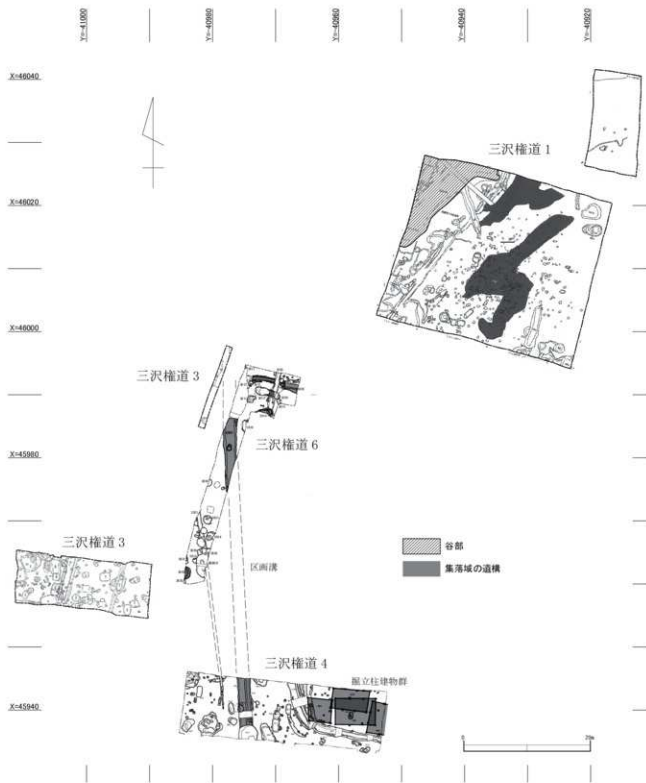
道と街道に面して御勢大霊石神社が所在している。近年、調査事例が蓄積されつつあり、神社の門前町としての集落の広がりを検討するうえで、今後の調査の蓄積が期待される。

<主要参考文献> * 報告書は割愛

宇野隆夫 1997 「中世食器様式の意味するもの」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集

鶴柄俊夫 1997 「土製に炊炊具にみる中世食器文化の特質」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集

山本信夫・山村信榮 1997 「中世食器の地域性10 - 九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集



第17図 三沢権道遺跡1・3・4・6次調査区配置図 (S=1/600)

表1 出土遺物 観察表

法量→口；口径、高→高さ、残高→残存高さ→高残、重→重量 器種→土；土器類、陶質→陶器類土器

出土土器

検出 番号	図原 番号	出土遺構	器種	法量cm (部寸法)	色調	胎土	地皮	調整	残存率	備考
4-1	5-2	SK14上層	土・すり鉢	口：29.4 底：12.5 高：12.5	内：橙色 外：橙色	石英 金雲母	良	内：ハケツ 外：ハケツのちナデ		片口 内面上部に嵌付着
4-2	5-1	SK14	土・皿	口：(6.0) 底：(4.6) 高：1.4 口×径別	内：鈍い褐色 外：鈍い褐色	金雲母 角閃石	良	内外：回転ナデ 外底面：糸切り	底面1/2	底面糸切り
4-3	5-3	SK18上層	土・皿	口：(3.0) 高：3.8	内：橙色 外：橙色	金雲母	良	内外：回転ナデ 外底面：糸切り		
4-4	5-4	SD2赤道上	磨製・鉢	口：(28.0) 底：(10.2)	内：灰色 外：灰色	石英	良	内：ナデ 外：回転ナデ 外底面→セラケナリ		片口 口縁部に自然嵌付着
4-5		SD2	土・鉢	残高：6.8	内：明黄褐色 外：浅黄褐色	金雲母 石英	良	内：ナデ		
4-6	6-2	SD6	土・皿	口：(8.2) 底：(4.6) 高：3.6	内：橙色 外：橙色	金雲母 角閃石	良	内外：回転ナデ 外底面：糸切り	底面1/2 口縁1/3程度	底面糸切り
4-7	6-1	SD6	土・皿	口：(12.8) 底：9.0 高：4.2	内：橙色 外：橙色	金雲母 角閃石	良	内外：回転ナデ 外底面：糸切り	底面→口縁 底面1/2	底面 糸切り 内面 嵌 付着
4-8	6-3	SD6	土・鉢	口：(16.0) 残高：7.5	内：灰褐色 外：暗褐色	石英・金雲母	良	内：ハケツ 外口縁部：ナデ 外底面：ナデ		口縁→底面 小片
4-9	6-4	高脚杯	土・皿	口：(7.4) 底：8.0 高：2.3	内：鈍い黄褐色 外：鈍い黄褐色	石英・金雲母 角閃石	良	内外：回転ナデ 外底面：糸切り	底面1/2 口縁1/2程度	底面糸切り
4-10	6-5	高脚杯	土・鉢	残高：8.2	内：褐灰色～灰黄褐色 外：黒色～黒褐色	石英・金雲母 角閃石	良	内：ハケツ 外：ハケツ 白粉→ナデ	底面1/3、口縁1/6	外面にウケツ付着

出土石器

検出 番号	図原 番号	出土遺構	器種	計測値				備考	
				長さcm	幅cm	厚さcm	重量g		
5-1		SK18下層	磨き石	10.1		3.9		16.5	・石材：凝灰岩 ・上下両面に敲き痕あり
5-2	6-6	SK18下層	石臼	16.2		8.2		2690	・石材：凝灰岩 ・縁部け伏突起あり、裏面に割みあり ・1/4程度残存
5-3		SD2	磨き石	12.8		5.2		350	・石材：凝灰岩
5-4		SD2	すり石	11.5		5.5		250	・石材：花崗岩

出土瓦

検出 番号	図原 番号	出土遺構	器種	法量cm (部寸法)	色調	胎土	地皮	調整	残存率	備考
5-5	6-8	SK18	平瓦	長軸長：12.4 短軸長：7.4 厚さ：2.0	凸部：灰白色 凹部：灰白色	石英・金雲母 角閃石	良	凸部：ケズリのちナデ 凹部：ケズリのちナデ 側面：ケズリ		
5-6	6-9	SK18下層	平瓦	長軸長：7.5 短軸長：5.3 厚さ：1.7	凸部：褐灰色 凹部：灰白色	石英・金雲母 角閃石	良	凸部：ケズリのちナデ 凹部：ケズリのちナデ 側面：ケズリ		

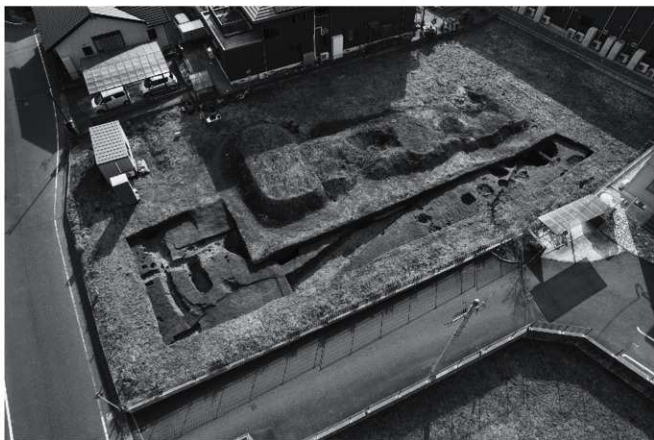
出土鉄器

検出 番号	図原 番号	出土遺構	器種	計測値				備考		
				長さcm	幅cm	厚さcm	重量g			
5-7	6-7	SK18下層	不明 鉄製品	6		0.8		0.9	20.6	

図版1



①三沢権道遺跡6 調査区全景 (上空から撮影)



②三沢権道遺跡6 調査区全景 (南東側上空から撮影)



① 1号土坑完掘 (東側から撮影)



⑤ 4号土坑完掘 (西側から撮影)



② 2号土坑完掘 (東側から撮影)



⑥ 5号土坑完掘・土層断面
(北側から撮影)



③ 3号土坑完掘 (南側から撮影)



④ 4号土坑土層断面 (西側から撮影)



⑦ 6号土坑完掘 (北側から撮影)

図版3



① 8号土坑完掘（西側から撮影）



④ 11号土坑土層断面（東側から撮影）



② 9号土坑完掘（東側から撮影）



⑤ 11号土坑完掘（東側から撮影）



③ 10号土坑完掘（東側から撮影）



⑥ 4号溝・15号土坑土層断面（東側から撮影）



⑦ 14号土坑・15号土坑完掘
（東側から撮影）



① 16号土坑完掘
(北側から撮影)



② 18号土坑完掘
(東側から撮影)



③ 1号溝完掘
(南側から撮影)



④ 18号土坑土層断面 (北東側から撮影)



⑥ 2号溝 C-C' 土層断面 (南側から撮影)



⑤ 2号溝完掘
(南側から撮影)



⑦ 2号溝 A-A' 土層断面 (南側から撮影)

図版5



① 5号溝完掘
(南側から撮影)



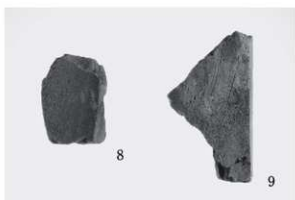
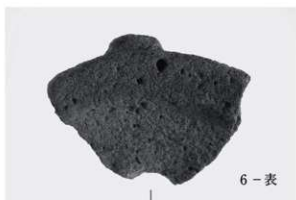
② 6号溝完掘
(南側から撮影)



③ 鳳倒木掘削状況
(南側から撮影)



出土遺物①



報告書抄録

ふりがな	みつさわごんどういせき								
書名	三沢権道遺跡 6								
副書名	福岡県小郡市三沢所在遺跡の調査報告								
巻次									
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書								
シリーズ番号	第 354 集								
編著者名	高橋 渉・西江 幸子								
編集機関	小郡市教育委員会 小郡市埋蔵文化財調査センター								
所在位置	〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5147-3 Tel.0942-75-7555								
発行年月日	令和 5 年 3 月 31 日								
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町 村	遺跡番 号						
三沢権道遺跡 6	福岡県 小郡市 三沢字 権道	40216		33° 24′ 50″	130° 33′ 34″	2021.11.29 ～ 2022.02.03	160 m ²	個人住宅建設 (道路部分)	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
三沢権道遺跡 6	集落	中世	土坑 溝	土師器 瓦質土器 瓦・石器					
<p>調査地は、宝満川西岸に広がる扇状台地（中位～低位段丘）の端部に位置する。本調査では、溝 5 条、井戸を含む土坑 15 基、ピット数基を確認した。検出した土坑のなかには、近隣でも確認されている深さ 1.5m 前後を測る大形の土坑が数基確認された。また、本調査区で検出した南北方向の溝は、三沢権道遺跡 4 から続いていることが判明した。三沢権道遺跡 4 では、掘立柱建物群が検出され、また本調査区北側に隣接する三沢権道遺跡 1 では、河川の氾濫原が確認されている。このことを踏まえるとこの東西方向の溝は、集落域の北限を示している可能性が高いと考えられる。</p>									

三沢権道遺跡 6

小郡市文化財調査報告書 第 354 集

令和 5 年 3 月 31 日

発行 小郡市教育委員会

小郡市小郡 255-1

出版 片山印刷

小郡市祇園1-8-15